

The LRQA logo is enclosed in a teal square border. The letters 'LRQA' are in white, with a teal checkmark symbol integrated into the letter 'A'.

LRQA

ネットゼロへの道

このシリーズの第1部では、ネットゼロ目標の設定に関する留意点について検討しました。第2部では、ネットゼロへの道をどのように設定するか、スコープ1とスコープ2排出量に焦点を当て、そうした取り組みをサポートするための基準や指針をいくつか紹介します。

第2部 — 管理対象に対してアクションを起こす — スコープ1とスコープ2の排出



**ネットゼロを実現するための
ハイレベルのアプローチは単
純明快です。すなわち、ライ
フサイクル全体での温室効果
ガス (GHG) を可能な限り
除去、除去できない GHG に
ついてはその排出量を削減
し、炭素集約的な活動や排出
源を、より集約度の低いアプ
プローチや再生可能エネルギー
で代替、および最後の手段と
して、オフセットの取得によ
り回避できないものだけを中
和することです。**

しかし、何らかの行動を起こす前に、組織のあらゆるスコープ全体における正確な GHG 排出量の基準値を設定することが重要です。これを行わないと、ビジネスにとっての主要なリスクと機会、および対処するための長期的な計画が必要となる重要な問題を理解することは出来ません。

国際的に認められた規格の利用により、こうしたベースラインを正確かつ完全に計算することが出来ます。温室効果ガス (GHG) プロトコルと ISO 14064-1¹ は代表的な 2 つの例です。経験豊富な、認定を受けた検証機関は、当初からお客様のアプローチのギャップ分析を支援し、出発点が正しいことを保証しつつ、お客様の最終的なベースラインを保証してくれるでしょう。

スコープ 1 とスコープ 2 の排出量の算定は、組織が排出源と入手先を完全に掌握しているため、最も単純明快な方法です。しかし、スコープ 3 の排出は、それよりもはるかに重要な課題です。スコープ 3 排出は企業の主要な事業以外の活動から発生する排出であり、上流と下流の広範な活動が含まれています。

こうした複雑さに対処するため、GHG プロトコルではスコープ 3² の具体的なガイダンスを作成しました。このガイダンスでは、企業がどこに焦点を当てるべきかを理解するために、上流のバリューチェーンの 8 つと下流のバリューチェーンの 7 種類の 15 種類の排出について説明しています。バリューチェーン全体で緊密に連携することはスコープ 3 排出量を定量化し、それに対処するために不可欠なもので、本シリーズ

の最終回で再び取り上げるテーマです。

正確なベースラインのカーボンフットプリントは、主要な排出源を定量化する上で大いに役立ちます。しかし、脱炭素へのシフトによってもたらされるすべてのビジネスリスクと機会も特定、検討および計画する必要があります。ネットゼロの達成に伴うビジネスへの影響を過小評価してはなりません。多くのビジネスモデルでは、考え方のパラダイムシフト（その時代に当然と考えられていた物の見方や考え方が劇的に変化すること）が必要になるほか、組織全体に完全に浸透させる必要があります。この達成に成功した組織は、例えば、環境マネジメントシステム ISO 14001³ やエネルギーマネジメントシステム ISO 50001⁴ を通じて、ネットゼロ目標を既存の実績あるマネジメントシステムに追加しています。

これらのマネジメントシステムの仕組みを利用することにより、組織はより効果的に次のことを行うことができます。

- 投資家や消費者などのステークホルダーのニーズへの対応
- 事業リスクや顧客保護に関する基準や法令などコンプライアンス義務の管理
- ネットゼロ目標が、事業の目的と戦略に適切に反映されていることを確認すること

これらの規格が PDCA（「計画」、「実行」、「チェック」、「行動」）モデルを通じて継続的改善を推進するフレームワークを作成します。これらの規格ではライフサイクルに関する考慮も求められ、設計からライフサイクルの終わりまでリスクと機会の特定をサポートし、ネットゼロ目標をすべての意思決定と事業プロセスに統合することを可能にします。

適切な業務システムが実施されたら、次のステップは経営陣や取締役会を含む組織全体のキャパシティ・ビルディングを行うことです。全員が、コンセプト、変化の必要性、ネットゼロ目標にビジネスを合わせることのメリットを理解する必要があります。とりわけ新しい製品、プロセスやビジネスモデルのイノベーションにおいては、新しい技術能力は必要になることはほぼ間違いありません。従業員の関与と意見を確保することは、ネットゼロが全体に要求するイノベーション、行動志向の考え方、共有された学習文化は、ビジネス全体で必要とされます。

組織が管理できるスコープ 1 とスコープ 2 排出量は、一般的には、比較的早く、ほとんどあるいは全くコストをかけずに進展する機会を提供します。初期のステップとしては、暖房、事業用車両管理、産業プロセスなどの燃焼発生源からスコープ 1 から排出されるのでムダを省くことなどが含まれます。移動体からのスコープ 1 排出量の削減は、自家用車による出張を見直し、削減し、可能な場合には、非化石燃料を動力源とする車両に置き換えることがもう一つの早道となります。

空調と冷凍の使用に伴うハイドロフルオロカーボン (HFC) の排出はスコープ 1 から見落とされがちです。一般的に HFC の排出量は少量ですが、1 トンが通常、数千トンの二酸化炭素に相当するため、これらの設備を交換することで、大幅な利益を得ることが出来ます。

エネルギーマネジメントの効率化による、スコープ 2 排出量のムダを省くことも、もう一つの簡単なステップです。電力消費量を削減できない場合には、化石燃料から発電された電力を再生可能エネルギーで代替する、明らかに効果的な手段です。しかし、ここでも注意が必要なのが、グリーン電力は、エネルギーが再生可能でなくても、再生可能エネルギー発電源証明書 (REGO) を取得することで、100% 再生可能であると主張することができます。これは、エネルギーと REGO を一緒に販売する必要がないためです。グリーンタリフを本当にグリーンであることを確認するには、電力購入契約を通じて REGO 付の再生可能エネルギーを購入する企業を探すことです。

これらの基本は、ネットゼロに向けた道の第一歩であり、より困難な次のステップ、つまり、組織が直接コントロールが出来ない排出量に影響力を行使して対照するための出来刹那ポジションに組織を置くことになります。このシリーズの最終回では、バリューチェーン全体、およびその先にあるネットゼロ・コラボレーションへのアプローチと相互のメリットについて考察していきます。

1 ISO 14064-1:2018 組織における温室効果ガスの排出量及び吸収量の定量化及び報告のための仕様並びに手引

2 GHG プロトコル。スコープ 3 排出量の算定技術ガイダンス (v1)。企業のバリューチェーン (スコープ 3) の算定・報告基準の補足。

3 ISO 14001:2015 環境マネジメントシステム — 要求事項および利用手引き

4 ISO 50001:2018 エネルギーマネジメントシステム — 要求事項および利用手引き

ネットゼロに向けた道筋を示す重要な 5 つのステップ

1

すべてのスコープ全体で正確なベースラインとなるカーボンフットプリントを確立



2

ネットゼロの達成によるビジネスへの影響を正確に評価し、リスクと機会を特定する。



3

既存の実績あるマネジメントシステムにネットゼロ目標を追加



4

理解と関与を推進するためのビジネス全体の能力を構築



5

スコープ 1 とスコープ 2 の排出量を削減するためのクイックウィンを目指す



LRQA がお客様の組織を支援できる方法について

LRQA の検証サービスはお客様による管理を支援し、持続可能性という課題のあらゆる側面において、前向きな変化と透明性の向上を促進します。

LRQA の各分野のスペシャリストはカーボンマネジメントに関する幅広い専門知識を駆使して、コンプライアンスを証明するとともに、お客様のカーボン排出量を正確に検証し、お客様の組織とサプライチェーン全般にわたるバリューチェーン全体の GHG 排出量の削減を支援します。

LRQA の検証サービスは、世界の主要な規格や制度、またはお客様特有の要求事項に基づいた特注のプログラムを通じて提供され、より持続可能な未来への取り組みをサポートします。

詳細情報については
<https://www.lrqa.com/ja-jp/>
にアクセスしてください



LRQA

YOUR FUTURE. OUR FOCUS.

LRQA について：

認証、ブランド認証、食品安全、サイバーセキュリティ、インスペクション、教育研修分野の比類なき専門知識を結集することにより、当社は世界的な認証のリーディングプロバイダーの地位を確保しています。

その伝統は誇るべきものですが、顧客との今後のパートナー関係を構築する上で、本当に重要なのは現在の当社の姿です。揺るぎない価値、リスク管理・軽減における数十年の経験、未来への的確なフォーカスを組み合わせることで、より安心・安全・持続可能なビジネス構築に向けてお客様をいつでも支援します。

独立した審査・認証・教育研修から、技術アドバイザリーサービス、リアルタイムの認証技術、データによるサプライチェーン改革まで。当社の革新的なエンドツーエンドのソリューションが、変化の速いリスク環境に積極的に対処できるようお客様をサポートします。つまり、未来の状況を成り行きに任せるのではなく、お客様が自ら構築できるようになるのです。

お問い合わせ

URL : <https://www.lrqa.com/jp>

LRQA リミテッド

〒 220-6010

横浜市西区みなとみらい 2-3-1

クイーンズタワー A10 階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQA では細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について、当社は一切の責任を負いません。

Care is taken to ensure that all information provided is accurate and up to date; however, LRQA accepts no responsibility for inaccuracies in or changes to information.

For more information on LRQA, click here (<https://www.lrqa.com/entities>)

© LRQA Group Limited 2021